

## 冬期スクーリング

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：本講義の目標と構成	講義の目標と構成をオリエンテーションし、履修カルテや事前提出レポート等を、修正を含めて点検する。
第2回	教育実習の振り返り	各自の教育実習の総括および事前提出レポートを素材に、教職に就くために欠かせない力量やスキルとはなにかという観点から、教育実習を振り返る。
第3回	教職のあり方－報告と討論①：職務や労働条件	職務の多様性（登校指導、給食指導、身体・健康管理に関する指導、清掃指導等を含む）の理解を含み、教師の職務の全体像と労働条件を理解する。
第4回	教職のあり方－報告と討論②：教師の専門性と権限	教育法規に基づき、教師の権限や自由、子どもの権利を理解し、教師の専門性を向上させる制度やしくみを理解する。併せて、教師が学び続ける姿勢や取組みについても考える。
第5回	教職のあり方－報告と討論③：学級運営と教員の評価・管理、学校評価	学級経営の基本的あり方について理解し、また教員が相互に協力して学校教育を推進していく同僚性のあり方を考える。
第6回	授業指導の実際－授業記録の共同研究（1）：単元、目標と評価、生徒理解を重点に	6、7、8回については、担当教科・分野に関する授業記録（VTR、DVD、実践記録等）を素材に、授業の構成要素に関する重点を毎回設定しながら、共同で授業研究をする。
第7回	授業指導の実際－授業記録の共同研究（2）：教材と教具、内容と構成を重点に	6、7、8回については、担当教科・分野に関する授業記録（VTR、DVD、実践記録等）を素材に、授業の構成要素に関する重点を毎回設定しながら、共同で授業研究をする。
第8回	授業指導の実際－授業記録の共同研究（3）：指導方法とコミュニケーションを重点に	6、7、8回については、担当教科・分野に関する授業記録（VTR、DVD、実践記録等）を素材に、授業の構成要素に関する重点を毎回設定しながら、共同で授業研究をする。
第9回	生徒指導の事例研究（1）：不登校やいじめ、対人関係トラブル	9、10回については、テーマに対応する個別事例を取り上げ、その中での生徒認識や教師の指導方法を、ロールプレイなども取り入れて検討する。
第10回	生徒指導の事例研究（2）：家庭・親との対話や支援、地域・他機関との連携	9、10回については、テーマに対応する個別事例を取り上げ、その中での生徒認識や教師の指導方法を、ロールプレイなども取り入れて検討する。
第11回	学生研究成果発表とその集団検討（1）：研究対象は中学校	11、12、13回については、学生自らが設定した模擬授業を含む研究発表をおこない、発表者自身の省察もふくめて集団で事実や出来事を確認し、問題点や課題を出し合い議論する。
第12回	学生研究成果発表とその集団検討（2）：研究対象は高校	11、12、13回については、学生自らが設定した模擬授業を含む研究発表をおこない、発表者自身の省察もふくめて集団で事実や出来事を確認し、問題点や課題を出し合い議論する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回を受講する前に教育実習の振り返りをレポートでまとめてくる（教育実習日記にまとめたレポートを中心に）。第5回では教育実習期間中に実施した自分の授業に関して、授業記録（指導案、実際の進行、生徒との対応、指導教諭からの指摘）を事前にまとめておく。第7回以降、自分の担当科目に関して模擬授業が実施できるように準備する。毎日授業後に授業で学んだことをミニレポートとしてまとめ、これを総括したものを最終レポートとして提出する。

#### 【テキスト（教科書）】

筒井美紀・遠藤野ゆり編『ベストをつくす教育実習 強みを活かし実力を伸ばす』2017・有斐閣  
その他必要な文献や資料は授業内で指定、あるいは配布する。

#### 【参考書】

文部科学白書最新版（インターネットによる文科省ホームページを利用）等のデータ  
数冊の教育実践記録（講義の最初に教科ごとに適切なものを選択して指示する）  
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）

#### 【成績評価の方法と基準】

①個別課題レポートについての評価（50%） ②演習の中で分担した報告作業に関する評価（30%） ③討論への参加やコメントペーパー提出などの平常点（20%）を目安として、総合的に評価する。なお、最終の評価については、必要に応じて個別面接を実施する場合もある。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業を実践的に振り返る参加型の授業を希望する声が多く、この形式を踏襲する。また実践演習の内容については事前指導の教員とも情報を共有する。

#### 【学生が準備すべき機器他】

模擬授業担当者になった場合授業ができるように準備をしてください。

## 2群 前半集中

GE0300TE

### 現地研究（冬期スクーリング）

中川 秀一

カテゴリ：冬期 | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：1 単位

期間：2 群前半集中

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照備考：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

房総半島をフィールドとし、地域の産業と暮らしの変貌を視察し、農村空間の商品化について考える。東京の近郊にあるものの通勤圏には含まれない外房地域では、日帰りから短期滞在型の観光地として、さらにはライフスタイル型の移住者のみられる地域として発展してきた。房総半島の自然環境を主として地形を中心に観察し、その自然環境および田園景観を活かした観光事業について聞き取り調査を行い、景観の商品化による地域の変貌を理解する。

#### 【到達目標】

大都市圏外縁部の農山村の実態に触れながら、地域が景観や生活そのものを商品化している様子を観察し、そのことによる観光事業の展開、さらには移住者、後継者の役割などを考える。縮小社会といわれる中で地域は困難にどのように向き合い、また打開しようとしているのかを、地域の状況の観察と地域の人たちとの対話（聞き取り）によって理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

現地でのフィールドワークとディスカッションを繰り返ししながら進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の主旨と概要の説明
第2回	地方鉄道沿線からの観察1	小湊鉄道からの車窓風景観察
第3回	事業者の取り組みを学ぶ1	小湊鉄道事業者への聞き取り
第4回	地方鉄道沿線からの観察2	いすみ鉄道からの車窓風景観察
第5回	事業者の取り組みを学ぶ2	いすみ鉄道事業者への聞き取り
第6回	房総半島の産業を学ぶ：水産業	銚子漁港観察
第7回	房総半島の産業を学ぶ：醸造業	ヤマサ醤油工場見学
第8回	海岸の自然環境の観察	九十九里浜の景観観察
第9回	海岸の自然環境の活用：観光と移住	九十九里浜観光協会聞き取り
第10回	房総半島の産業を学ぶ：伝統工芸	萬祝染（大漁旗） 見学・体験
第11回	棚田の保全と景観の活用	大山千枚田見学 NPO 団体聞き取り
第12回	ディスカッション	現地調査のまとめとレポート課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料を配布しますので、目を通しておくこと。それ以外にも訪問地域に関する情報を調べておくことよ。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。

【参考書】

適宜、提示する。

【成績評価の方法と基準】

現地調査およびディスカッションへの参加（50%）、レポート課題（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

事前に資料等の情報提示を行うことにより受講生の事前準備も異なる。早めの情報提示を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子メールで資料の受け渡しが可能なように、PC のメールアドレスを準備して置くこと。

【その他の重要事項】

特になし。

【到達目標】

- 1) 名古屋東部の丘陵や名古屋中心部の台地、周辺の低地の特色を理解できる。
- 2) 地域の産業や歴史を把握した上で、自然環境と人々とのかかわりを考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、終日屋外で実施する（一部屋内施設を利用する）。行程（予定）は以下の通りである。

- 1 日目：現地集合。尾張丘陵やその周辺を見学し、自然環境や産業について把握する。
- 2 日目：名古屋市内（主に熱田台地）の自然環境を観察し、都市の成り立ちについて考える。
- 3 日目：名古屋北西部の自然環境と歴史を学ぶ。現地解散。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

名古屋市およびその周辺地域の自然環境（地形・地質・植生など）や産業・歴史について事前に予備知識を得ておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

全日程の出席が成績評価の前提である。授業への積極的な姿勢（50%）および事後レポート（50%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

屋外のみではなく、屋内施設の活用にも努めます。

【その他の重要事項】

野外活動が中心となるため、防寒・防風対策を念入りにしてほしい。公共交通機関や徒歩による移動を念頭に動きやすい服装・装備で臨むこと。

実施期間：2020年1月27日（月）～29日（水）

実施場所：名古屋市およびその周辺地域（瀬戸市・清須市）

費用（宿泊費・交通費等）：30000円程度

宿泊場所：未定（名古屋市内のビジネスホテルを予定、2泊とも同じ場所）

GEO300TE
<b>現地研究（冬期スクーリング）</b>
羽佐田 紘大
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：1 単位 期間：2 群前半集中 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

名古屋市とその周辺地域を事例に、丘陵・台地・低地の自然環境を理解するとともに、人間活動との関係を考えていく。